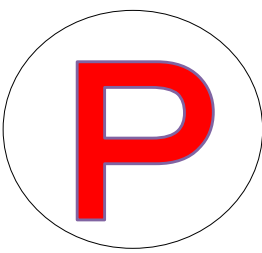


令和3年度PDCAサイクル(CST介入依頼件数、介入後の変化)



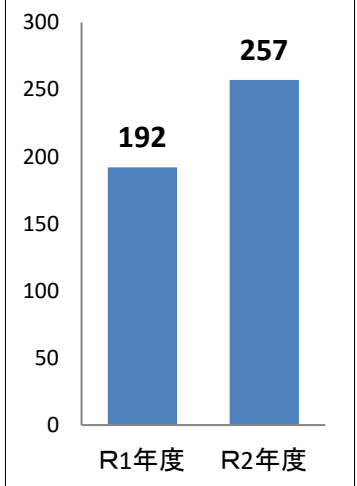
計画

【目 標】 がんサポートチーム(以下、CST)活動や研修会開催を通して、院内全体の緩和ケアの充実を図る

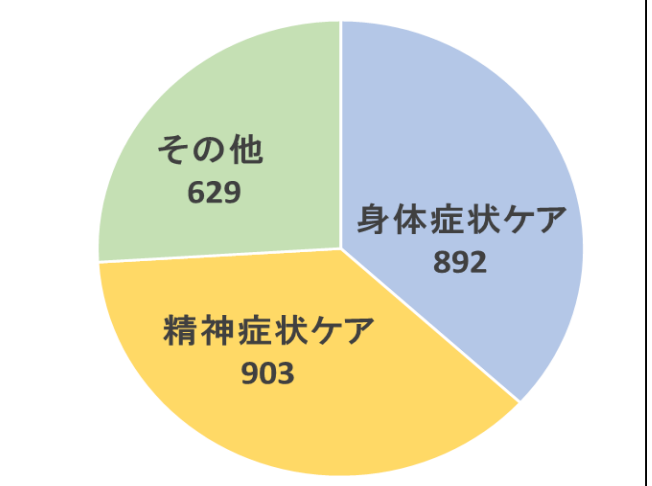
○依頼件数は増加傾向にあり、主として身体症状と精神症状へのケアが必要とされている

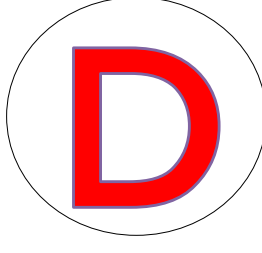
○がんの苦痛症状に対する緩和ケアの知識を強化する必要がある

依頼件数の推移



R2年度介入内容(件数)





実行

1. CST活動のさらなる充実を図った。

1) 週3回多職種でカンファレンスを実施し、症状マネジメント方法について検討した。

2) CST介入前後に、緩和ケアの評価尺度であるSTAS-J(Support Team Assessment Schedule)を用いて症状評価を行った。


2. 疼痛マネジメントにおけるスタッフの教育を行った。

1) がん看護リンクナース会において、現状の把握と教育を行った。

- ・ 苦痛スクリーニングの必要性について再周知した。
- ・ 部署の課題に対してレクチャーを行い、各部署スタッフへ知識の共有を図った。

2) 緩和ケアについての研修会を実施した。

- ・ 緩和ケア研修会(PEACE)
- ・ がん看護研修(疼痛マネジメントについて)
- ・ オンコロジーセミナー(緩和ケア)



評価

1. CST活動の充実

1) 症状マネジメント方法を多職種で検討しながら関わることができた。

2) 介入の前後で、STAS-Jの3項目において症状の改善が認められた。

項目別では、痛みは47.8%、症状による影響は23.5%、不安は41.5%の改善率がそれぞれ認められた。

コロナ感染対策の影響下で、家族に関わる項目は評価不能であった。

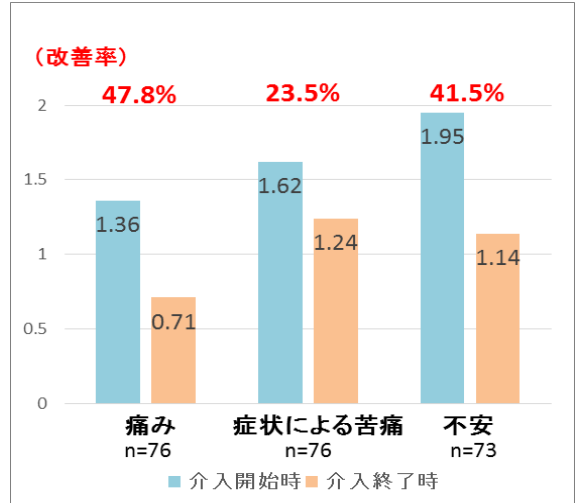
2. 疼痛マネジメントにおけるスタッフの教育

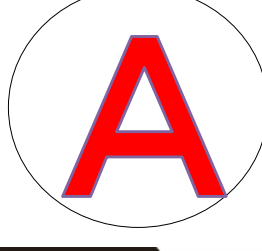
1) がん看護リンクナース会では、疼痛マネジメントやCSTとの連携について悩んでいることが明らかになった。

2) 院内研修会の受講実績

- ・ 緩和ケア研修会(PEACE): 22名(研修医12名、医師10名)
- ・ がん看護研修: 91名(新人看護師66名、既卒者25名)

STAS-Jによる苦痛症状の評価・改善率





改善

1. CST活動の充実

1) CST介入前後のSTAS-Jでの評価を継続

- ・ 苦痛症状を客観的に評価しすることで、緩和ケアの質向上を目指す。
- ・ 今後コロナ感染拡大の状況が改善すれば家族に関する項目の症状緩和も目指す。
- ・ STAS-Jをより効率的に実施する。

2. 院内全体の緩和ケアの質向上

1) がん看護リンクナース会で定期的情報共有を行い、現場との連携を強化する。

2) 研修会を継続的に実施する。